

みんなで考えよう！ 書写指導②（毛筆編）

毛筆学習を始める前に～教師の準備～

教師が事前に準備すること

① 家庭への連絡

毛筆用具の購入を家庭へお願いします。子どもたちが片付けしやすいものを選ぶとよいです。用具に記名をすること、筆についているキャップははずすこと、筆をほぐすこと、雑巾を用意すること、汚れてもよい服装やエプロンを用意することなどを学年だより等で連絡します。

② 教材・教具の準備

姿勢図、筆の持ち方、用具の置き方などの掲示資料

・用具の置き方は、実際に児童が使う道具を写真に撮って拡大して掲示したり、ICTを使って提示したりするとよいです。また、パウチ加工（紙などをプラスチックフィルムで挟む）をして児童の机の上に置くことでよりわかりやすくなります。左利き用は、すべて逆にする方法もあります。

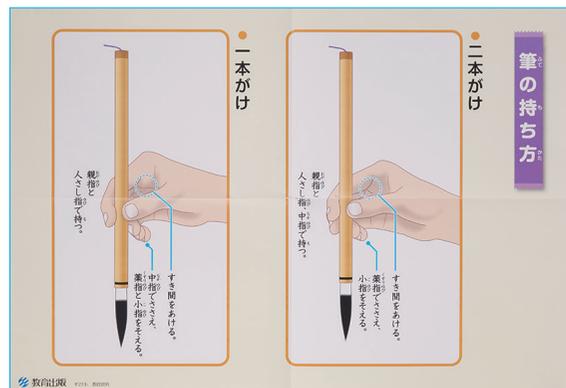


図1 筆の持ち方



図2 姿勢図

教材文字の拡大

- ・教科書の教材文字を、掲示用に拡大します。
- ・児童用には半紙大のサイズで、児童人数分、印刷しておくといよいです。

水書板

・教師用にマグネットで黒板に貼れるものを用意しておくとい便利だ。ない場合は、黒板の材質にもよりますが、水を含ませた筆で黒板に書くことで代用できます。半紙大の水書板を用意すると児童が練習できます。

机の配置

- ・隣どうしを離して間を空けます。列ごと向かい合わせにし、コの字に配置すると後ろから児童の様子をよく見ることができます。また、教室の中央に水書板コーナーなどを設置することもできます。
- ・椅子には、上着など汚れたら困るものは掛けないようにします。

練習用紙

・教師用指導書のワークシート編から印刷をしたり、DVD-ROMから必要な用紙を選び、自分で編集したりして用意します。ホチキスで留めておくと配付時間が短縮されます。



図3 児童用の教材文字（解説入り）

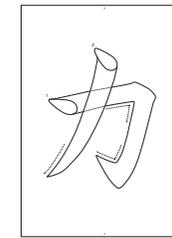


図4 かご字

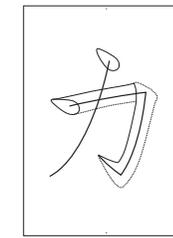


図5 骨書き

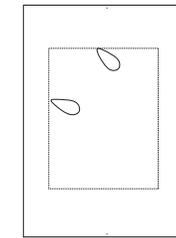


図6 チャレンジ

図3～6は、教師用指導書付属DVD-ROMに収録されています。

紙ばさみ

・紙ばさみを作ります。一クラス分作っておけば、学年で共有することもできます。個人で持つ場合は、自分が書いたものを保管することもできます。

<作り方のコツ>

- ・工作用紙と工作用紙の間を1.5cmくらい空けると半紙が楽に入れます。開く角度は30度から40度くらいがよいです。
- ・新聞紙は中の仕切りの数は八つくらいが適当ですので、新聞紙二枚を四つ折りにして袋の部分の部分を切っ中に入れるといよいです。
- ・紙ばさみの脇につける紙は、表紙の工作用紙の長い部分を2,3センチ切って使うとちょうどよいです。マチは、中心よりやや上の方につけた方が、開きが安定します。



図7 紙ばさみ



図8 紙ばさみ（開いたところ）

③ 後片づけのために

ごみ袋

・大きなごみ袋に拭き取った紙などを捨てるようにすると、ごみ箱が汚れません。

バケツ

・バケツの中に新聞紙を数枚敷き、そこに余った墨を入れると、新聞紙ごと捨てることのでき、バケツも汚れません。また、ペットボトルに入った水をバケツに捨てさせることで、流しの汚れを防ぐこともできます。

雑巾

・床ふき用のぬれ雑巾を用意しておくとい、汚したときに対処しやすいです。